ドラム缶工業会会報

ひびき

65

CONTENTS

1 ICDM役員会（平成24年10月10日、ドイツ）
2 AOSD役員会（平成24年11月29日、マレーシア）
3 第8回 AOSD国際会議　事前配布状
4 新社長登場・（株）山本工作所／山本氏
5 新社長登場・（株）東京ドラム罐製作所／今井氏
6 鋼製ドラムは〝リサイクルの優等生〟
7 化学工業指数の推移／200Lドラム缶市場動向推移
8 平成24年度上期出荷実績

厳しい状況の中で将来への対応を模索

ICDM役員会

平成24年10月10日 ドイツ・フランクフルト

ドラム缶工業会　賀川理事長

平成24年10月10日（水）ドラム缶製造業者の世界組織であるICDMの役員会がドイツ・フランクフルトで開催され、ICDM副会長でAOSD会長でもある、ドラム缶工業会の賀川理事長が出席しました。

リーマンショック、ヨーロッパ金融不安、日本の東日本大地震など世界を揺るがす事象がここ数年相次ぎ、産業界の状況は世界的に良くなく、アジア太平洋地域も新興国の成長率の鈍化が懸念されています。こういった外部環境のなかで、鋼製ドラム缶製造者の団体であるICDMとして、厳しい状況における将来への対応を模索しようと役員会で議論を行いました。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

地域での活動としては、2013年の第8回AOSD国際会議が規模の大きなイベントであり、他地域の方々からも大きな関心を持って頂きました。とくに、感謝祭の休日（11月28日前後）は避けて米国からの出席者が参加しやすい日程を検討してほしいとの要望が、SSCIから寄せられました。会議後、数週間かけてアジアのAOSDメンバーと日程を調整し直し、SSCIからの要望に応えることが出来ました。この国際会議には、ヨーロッパや米国から設備メーカーも含めて多くの方が参加されることを期待しています。

2014年のドイツ・デュッセルドルフでのインターパックでメタルパッキングプラザをSEFAが企画中です。SSCIやAOSDも相乗り出来ればICDMとしてのイベントになるので、今後の展開が期待されます。

米国のSSCIではマーケティングキャンペーンを継続中であり、新会長のスタービッグ氏が力を入れています。2014年のインターパックにつなげることを目指し、SEFAやAOSDも協力する予定です。

ドラム缶製造業者の国際組織図

平成24年10月10日時点

- ICDM　国際ドラム缶製造業者連合会　ボウム会長
  - AOSD　アジア・オセアニア鋼製ドラム缶製造業者協会　賀川会長
  - SSCI　米国ドラム缶工業会　スタービッグ会長
  - SEFA　欧州ドラム缶工業会　ボウム会長

AOSD役員会

平成24年11月29日
マレーシア・クアラルンプールにて

- 第8回AOSD国際会議
  - ＊2013年11月タイ・パタヤでの開催に向けて準備中
  - ＊メインテーマは技術（生産技術、設備技術、環境技術）
- AOSD副会長にタイのシンチャイ氏

平成24年11月29日（木）、アジア・オセアニアのドラム缶製造業者組織であるAOSDの役員会がマレーシアのクアラルンプールで開かれました。

2013年に予定している第8回AOSD国際会議の日程は、11月11～12日にタイ・パタヤでの会議、13日に工場見学会を行うことで再確認されました。技術中心の講演発表とすることにも出席者に異論はなく、承認されましたが、各国ともこれから発表者を準備することに最大限の努力が必要となります。テーマ例としては、ライン設備の簡素化および減少化、ペイントメーカーの技術を中心とした今後の動向、スティールメーカーの技術を中心とした今後の動向などが考えられます。

タイ側は共同ホストであり、ホストはJSDAが務めることも承認されました。タイ側の共同ホストは、具体的にはセンタイメタルドラム（STM）社とタイメタルドラム（TM）社であり、STM社のシンチャイ社長がタイを代表するAOSD副会長に就任することになりました。シンチャイ副会長を中心に、今後もタイの国内情勢に関心を払いながら国際会議の準備を進めていきます。

もうひとつの大きな議題であるAOSD会則の修正は、意思決定の迅速化、会則の不備・不整合の適正化を狙いとするもので、原案通りで了承されました。3年に1度の総会が廃止され、役員会で迅速に意思決定がなされることになります。

ドラム缶製造業者の国際組織図

平成24年11月30日時点

- ICDM 国際ドラム缶製造業者連合会（ボウム会長）
  - AOSD アジア・オセアニア鋼製ドラム缶製造業者協会（賀川会長）
    - JSDA ドラム缶工業会（賀川理事長）
    - SDAI インドドラム缶工業会（グプタ会長、AOSD副会長）
    - CPF 中国包装連合会（チョウリーダー、AOSD副会長）
    - LMDMK 韓国ドラム缶連絡会（リュウ会長、AOSD副会長）
    - MSM マレーシア・スタンタマウザー社（タンCEO、AOSD副会長）
    - TM&STM タイメタル社＆センタイメタル社（シンチャイSTM社 社長、AOSD副会長）
  - SSCI 米国ドラム缶工業会（スタービッグ会長）
  - SEFA 欧州ドラム缶工業会（ボウム会長）

ICDM International Confederation of Drum Manufacturers
AOSD Association of Asia Oceanic Steel Drum Manufacturers
SSCI Steel Shipping Container Institute
SEFA Syndicate Europeen de L'Industrie des Futs en Acier
JSDA Japan Steel Drum Association
SDAI Steel Drum Association of India
CPF China Packaging Federation (Steel Drum Special Committee)
LMDMK Liaison Meeting of Drum Makers in Korea
MSM Malaysia Stanta Mauser
TM & STM Thai Metal & Saeng Thai Metal

AOSD役員会メンバー　左から２人目／シンチャイ新AOSD副会長（タイ）、左から３人目／タンAOSD副会長（マレーシア）
左から４人目／リュウAOSD副会長（韓国）、左から６人目／賀川AOSD会長（日本）

Preliminary Circular Rev.1

The 8th AOSD International Conference

November 11 – 13 2013

Pattaya, Thailand

Main Subject : Technology *(Production / Equipment / Environment)*

Organizer Association of Asia-Oceanic Steel Drum Manufacturers(AOSD)

Host Japan Steel Drum Association(JSDA)

Co-Host Thai Metal Drum Mfg. Public Co., Ltd.
Saeng Thai Metal Drum Co., Ltd.

Date November 11(Mon) – 12(Tue) Optional Tour: 13(Wed) 2013

Venue Royal Cliff Hotels Group
353 Phra Tamnuk Road, Pattaya, Chonburi 20150, Thailand.

AOSD Chairman,
and JSDA Chairman
Mr. Kagawa

Thai Classical Dance

Tourism Authority ofThailand

Royal Cliff Hotels Group

Thai Tropical Beach

Tourism Authority ofThailand

株式会社山本工作所

株式会社山本工作所　代表取締役社長
山本　和男

九州地区で唯一のドラム缶メーカーである山本工作所。ドラム缶を主軸に地域密着型のビジネスを展開する。2012年5月に、37年間社長を務めた山本雄造会長から、バトンを受け継いだ。会社の社員や取引先など「わが社に関わった人たちが、幸福だと感じられるような会社にしたい」と話す。同社が掲げる“人間尊重”の社風を継承しながら、高品質で安全な製品づくりを通して、業容の拡大を推し進めていく。

● 地域密着型のビジネス展開 ●

山本工作所は、1946年（昭和21年）に八幡製鐵所出身の山本惣庸氏が設立した山本組がその前身。当時、中国などからの引き揚げ社員の雇用確保策に応じて、八幡製鐵所の加工品販売や製造ライン業務などを事業化していたという。そうしたなか「構内スクラップの冷延薄板を有効利用して、ドラム缶製造を開始するとともに、現在の山本工作所へと組織変更した」と創業時を振り返る。

折からの朝鮮戦争特需で米軍向けのドラム缶を大量受注し、事業規模を拡大。その後の高度成長期にあって、ドラム缶需要の増大にともなって、1949年に専用ドラム缶工場を建設し、1961年に入って北九州市戸畑区に新工場を全面移転、国内屈指のドラム缶メーカーに成長した。さらに1987年からは、現在の本社所在地である八幡東区枝光へ工場移転して現在に至っている。再生缶工場が作業開始（1982年）したほか、三井化学子会社（山西容器製作所）からドラム缶事業を譲受し大牟田事業所を発足させるなど、ドラム缶ビジネスを拡充し、現状では九州エリアで2工場体制を構築している。

その間も、「変化に対応し、常に新しい価値を作り出すことにより、広く社会に貢献する」という経営理念に沿って、小倉製鉄所や宇部興産苅田セメント工場といった構内作業、集塵機部門の設置、九州ホイール工業の設立、チューブラコンベヤの事業化など、多角化へも取り組みを進めてきた。

● たゆまぬ技術革新への取り組み ●

山本工作所は200ℓ缶のほか、10～100ℓの中小型缶の生産を手掛ける。“Innovation Now and Next”を標榜するが、この間も中小型缶ラインの改善プロジェクトを手掛けてきた。本社工場で「容量10～20ℓの小型缶に対して、業界初となるヘリウムテスター導入やシールコンパウンド塗布工程の自動化、塗装ラインの更新などを実施した」として、技術革新への取り組みにも余念がない。2012年初にはプロジェクトを完了。不良品率はそれまでの1ケタダウンと成果を上げている。中小型缶の内容物は8割が毒劇物で、とくに安全性が求められる。高い信頼性とともに安定供給体制を強みに「小売り分野を主体に新たな用途開拓も模索していきたい」と業容拡大に意欲を示す。

一方の200ℓ生産体制について、北九州の本社工場は月産10万本、大牟田事業所が同5万本の合計同15万本だが、大牟田での引き合いが旺盛という。本社工場での「ヘリウムテスターの高速化への取り組みと、巻締め工程の効率化として竪型シーマーの導入も検討中。来年中にも実現したい」と意欲を示す。

山本和男社長は1972年生まれの41歳。1997年9月に南シアトル公立大学を卒業後、1998年1月に山本工作所に入社。「入院で大学受験できず、父や姉たちにならって米国留学を決めた。ビジネスマネジメントを専攻したが、そういった経験から海外出張も物おじせずに行ける」と苦笑する。生産現場や営業、管理部門など幅広く担当し、2006年に副社長に。社長就任後、半年が経過するが「対外的にドラム缶工業会の理事に就任してから、地に足がついてきた」と最近の心境を語る。趣味は読書。東京出張の際に10冊程度をまとめ買いする。歴史小説が多く、最近は宮城谷昌光著作が多いとか。

社長登場

株式会社東京ドラム罐製作所

株式会社東京ドラム罐製作所　代表取締役社長
今井　久代

ATグループの一翼を担う東京ドラム罐製作所は新缶ドラムメーカー。更生缶を手掛ける朝日容器工業とともに、2012年4月1日付で、今井久代社長が兼務して両社のトップに就任した。創業者の中村福幸氏、母親の中村君子前社長の後を継いで、経営のかじ取りを託された。当初から、新生ATグループとして一体運営を打ち出すとともに、生産や営業で矢継ぎ早な施策を展開、事業改革への取り組みを積極化している。「社員一人ひとりがこの会社で働いてよかったと思えるようなオンリーワンの会社にしたい」として、新缶と更生缶を両翼に、一貫したドラム缶ビジネスを展開して一層の飛躍を目指す。

● 一体化運営が始動 ●

ATグループについて、今井久代社長は「朝日容器工業と東京ドラム罐製作所のイニシャル、AとTをとって名付けた。ドラム缶を作って運ばれて、戻ってくる。それを洗浄・再生した更生缶が、また使われる。さらには鉄スクラップの最終処分までと、一貫したリサイクルシステムを提供できるのは、わが社だけ」とグループ展開を前面にアピールする。

もともと、東京ドラム罐製作所は1933年（昭和8年）に東京都江戸川区で創業した。一方の朝日容器工業は、1952（昭和27年）に「父の中村福幸が更生缶工場を東京都葛飾区で設立。これを皮切りに更生缶需要の増加に応じるように浦和工場（1963年）、平塚工場（1966年）、栃木工場（1979年）と相次いで事業所を展開してきた。休日には父に連れられて、各工場を見てきた」と沿革をたどる。こうしたなかで1982年に東京ドラム罐製作所を買収し、「朝日容器・栃木工場に隣接して父母の長年の夢だった新缶工場を建設した」と振り返る。

● 現場力を磨き、品質と効率アップへ ●

東京ドラム罐製作所が生産するのは、鋼製やステンレス製200ℓ缶を軸に、50～100ℓといった中小型タイプや300ℓなど大型・特殊缶と、豊富な製品群を手掛けている。「規模が大きくない工場だからこそできることがある。ラインのなかで、ちょっと補修をかけたり、手を加えたりと、顧客のニーズにきめ細かく対応もできる」と差別化を重視する。

そうした取り組みの一方で「生産体制では工程が複雑となり、手作業も多くなる。製品に間違いがあってはならない。顧客に喜ばれるものを、事故なく提供していく。当然、生産効率を高め、収益を上げていく」と、生産体制の整備拡充を積極的に推進中だ。2012年末までに塗装工程を更新、竪型システムを新たに導入した。現在システム調整中で、近く稼働に入るという。並行して、出荷工程では年末からプラットホーム設置工事に着工、煩雑だった出荷ヤードの効率化を実現できるという。昨年4月に設置した設備開発本部中心に成果が上がってきた。さらに、仕上げ工程のライン化を図るなどと、一つひとつ工程見直しを進める。「ドラムづくりは楽しい。ずっと見ていても飽きないくらい。時間を作っては現場で研修を受けているところ。いずれ、全工程を体験したい。でないと判断できないと思う」と目を輝かせる。

情報システム部を昨年組織して、新たな情報システムを構築し「グループ工場間の情報連携を強めて、業務効率化を推し進める」とし、さらに経理や財務関係、営業販売、業務関連などと展開していく。今後は、品質管理部を設置し、グループを横断して品質管理水準の底上げに取り組むという。

「教育と企業経営は似ているところが多いと感じている」と話す今井社長は、特別支援教育を専門に、養護学校や特別支援学級で、31年間教鞭をとってきた。「社会とのつながりが強く、就職の際には生徒と一緒に作業実習を体当たりで行ってきた」など経験を生かして「心の触れ合いを通して、社員が持つ力を見出していくことを大切にする」を心がけている。

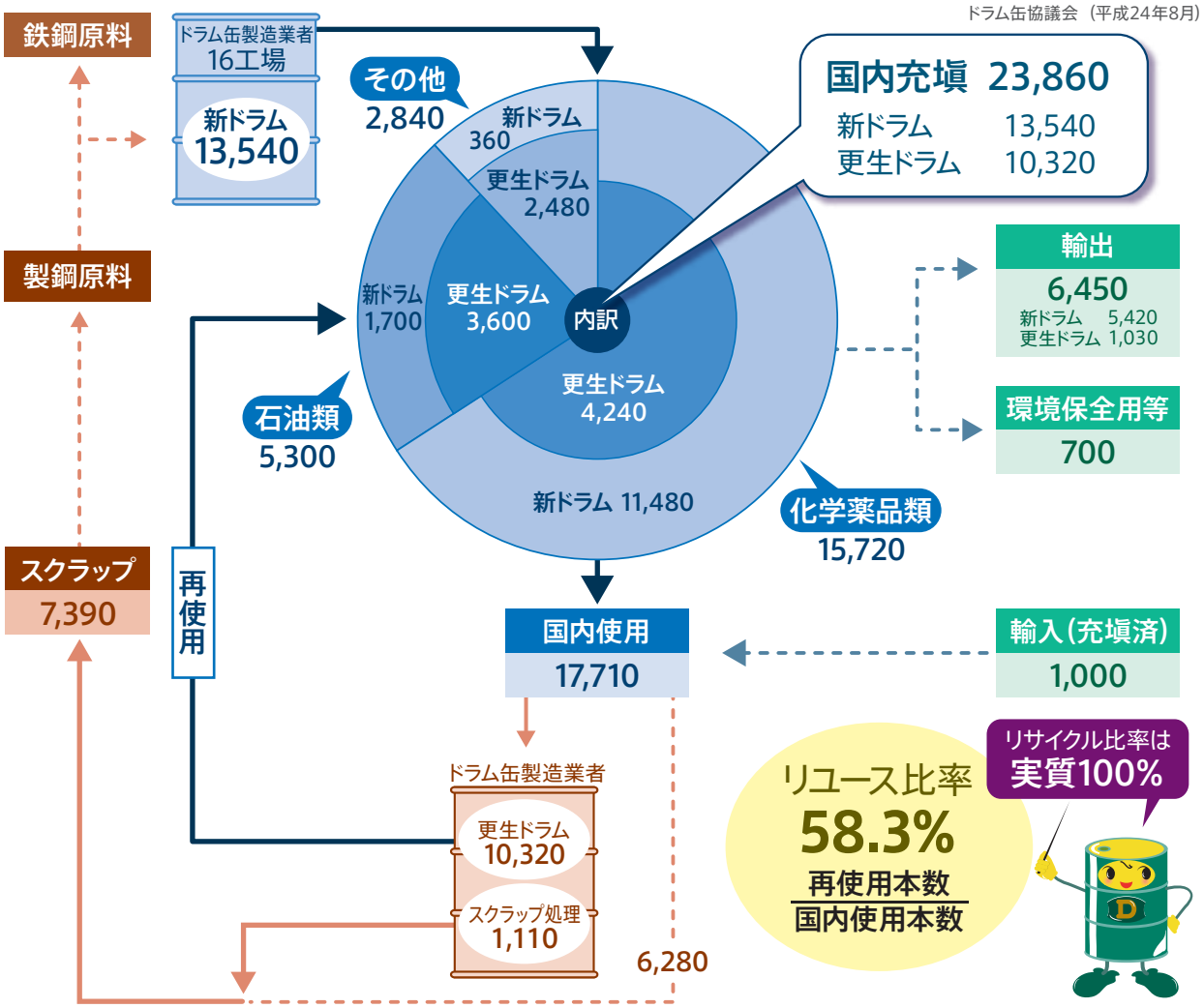
鋼製ドラムは“リサイクルの優等生”

資源としてのリサイクル比率は実質100%

鋼製ドラムは使用後、一部は更生缶メーカーに回収され、一部はユーザーから直接スクラップ処理業者に回収されています。ドラム缶はこのようにリユース（再使用）およびリサイクル（再利用）が確立しており、循環型リサイクルの優等生といえます。下の図は平成23年度版200ℓ鋼製ドラムリユース&リサイクルフローチャートです。ドラム缶のリユース比率は58.3%になりますが、環境保全用ドラム缶を除くと、資源としてのリサイクル比率は実質100%になります。

200ℓ鋼製ドラム リユース&リサイクルフローチャート（平成23年度ベース 単位:千本）

ドラム缶協議会（平成24年8月）

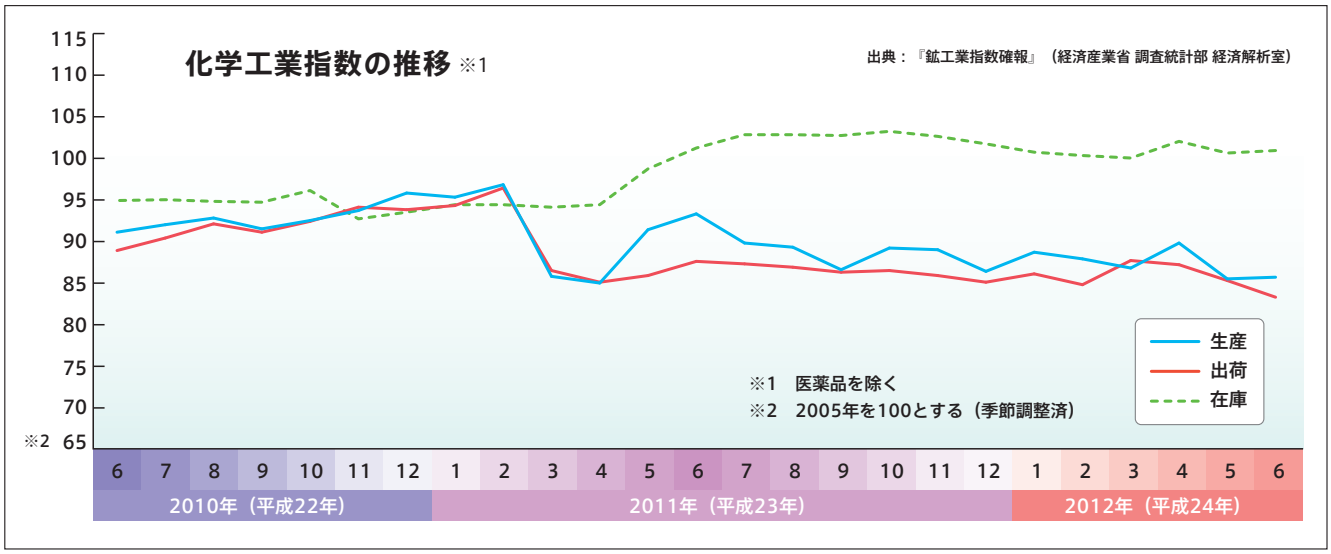


		当初（平成9年）	18年度ベース	19年度ベース	20年度ベース	21年度ベース	22年度ベース	23年度ベース
工場数	新ドラム	18工場	17工場（変わらず）	17工場（変わらず）	16工場（▲1）	16工場（変わらず）	16工場（変わらず）	16工場（変わらず）
製造本数	新ドラム	12,000千本	15,390千本（+2.9%）	15,800千本（+2.6%）	12,950千本（▲18.0%）	13,270千本（+2.5%）	14,520千本（+9.4%）	13,540千本（▲6.7%）
	更生ドラム	16,000千本	13,680千本（+0.1%）	13,370千本（▲2.3%）	11,350千本（▲15.1%）	10,820千本（▲4.7%）	11,180千本（+3.3%）	10,320千本（▲7.7%）
国内充填		28,000千本	29,070千本（+1.6%）	29,170千本（+0.3%）	24,300千本（▲16.7%）	24,090千本（▲0.9%）	25,700千本（+6.7%）	23,860千本（▲7.2%）
国内使用		26,000千本	23,380千本（+1.4%）	23,390千本（+0.0%）	19,580千本（▲16.3%）	18,000千本（▲8.1%）	19,070千本（+5.9%）	17,710千本（▲7.1%）
リユース比率		61.5%	58.5%（▲0.7%）	57.2%（▲1.3%）	58.0%（+0.8%）	60.1%（+2.1%）	58.6%（▲1.5%）	58.3%（▲0.3%）

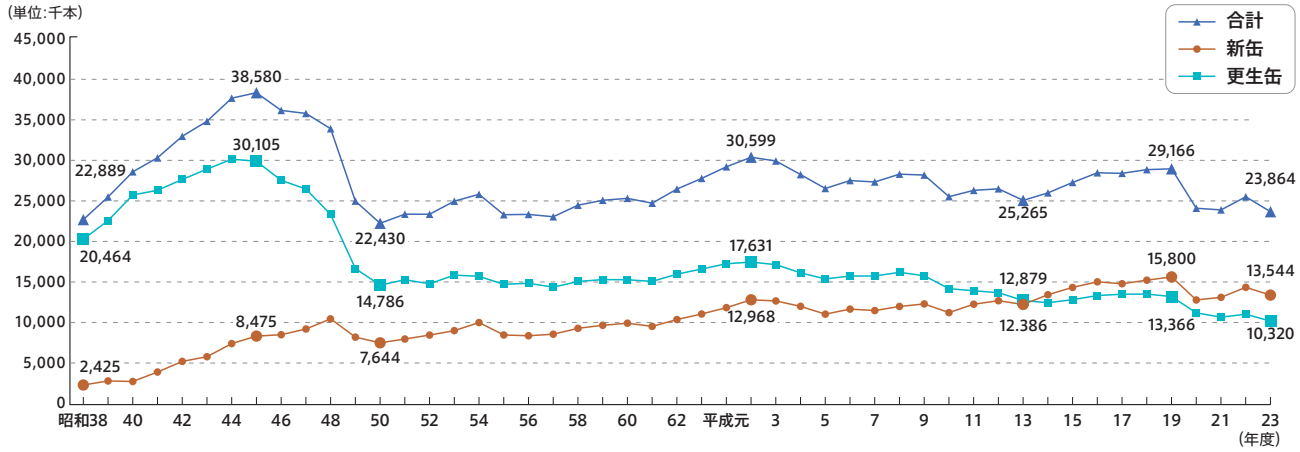
Watcher Report

化学工業指数の推移

平成23年の化学工業（医薬品を除く）の生産動向を季節調整済指数でみると、生産は前年比▲3.7%、出荷は前年比▲5.1%と、ともに2年ぶりの低下、在庫は前年比8.0%と2年連続の上昇となりました。



200ℓドラム缶市場動向推移（昭和38年度～平成23年度）



（単位：千本）

年度	昭和38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
新缶	2,425	2,924	2,862	4,029	5,343	5,924	7,548	8,475	8,645	9,353	10,607	8,345	7,644	8,113	8,603	9,148	10,149
更生缶	20,464	22,763	25,936	26,510	27,852	29,125	30,363	30,105	27,749	26,666	23,520	16,830	14,786	15,444	14,949	16,018	15,867
合計	22,889	25,687	28,798	30,539	33,195	35,049	37,911	38,580	36,394	36,019	34,127	25,175	22,430	23,557	23,552	25,166	26,016

年度	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成元	2	3	4	5	6	7
新缶	8,613	8,518	8,710	9,436	9,810	10,070	9,674	10,523	11,212	11,993	12,968	12,822	12,156	11,189	11,814	11,636
更生缶	14,880	15,010	14,528	15,230	15,466	15,447	15,241	16,139	16,769	17,424	17,631	17,316	16,300	15,549	15,905	15,905
合計	23,493	23,528	23,238	24,666	25,276	25,517	24,915	26,662	27,981	29,417	30,599	30,138	28,456	26,738	27,719	27,541

年度	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
新缶	12,142	12,454	11,380	12,419	12,849	12,386	13,590	14,502	15,186	14,952	15,393	15,800	12,945	13,270	14,521	13,544
更生缶	16,367	15,941	14,344	14,084	13,847	12,879	12,602	12,981	13,491	13,658	13,675	13,366	11,346	10,817	11,184	10,320
合計	28,509	28,395	25,724	26,503	26,696	25,265	26,192	27,483	28,677	28,610	29,068	29,166	24,291	24,087	25,705	23,864

（注）1. 千本以下四捨五入。　2. 昭和38年度の新缶生産本数は不明につき、生産トン数67,002トンを40年暦年平均単重27.63kgで逆算して算出した。

平成 24 年度上期出荷実績

平成24年度上期年出荷実績は、下の表に示す通りとなりました。

200L缶は、前年度上期比6.5%減の6,497千本と減少しました。

ペール缶も前年度上期比3.0%減の9,484千本、中小型缶も前年度上期比16.8%減の328千本となりました。

亜鉛鉄板缶およびステンレス缶の200L缶は前年同期を上回りました。

（単位：千本）

缶種		用途	石油	化学	塗料	食料品	その他	合計	前年同期比（%）
普通鋼薄板	200L缶		732	5,246	342	91	86	6,497	93.5
普通鋼薄板	ペール缶		5,055	3,838	367		224	9,484	97.0
普通鋼薄板	中小型缶	100L缶		55	3		0	58	83.0
普通鋼薄板	中小型缶	50L缶		43			4	47	79.0
普通鋼薄板	中小型缶	アス缶型		2			*	2	58.2
普通鋼薄板	中小型缶	その他容量缶	*	216	*		4	221	84.7
普通鋼薄板	中小型缶	小計	*	316	3		8	328	83.2
その他	200L缶	亜鉛鉄板缶		24	*	2	4	30	106.4
その他	200L缶	ステンレス缶		14				14	100.1
その他	200L缶	小計		38	*	2	4	44	104.3
その他	中小型缶	亜鉛鉄板缶		47			108	155	115.6
その他	中小型缶	ステンレス缶		4				4	89.5
その他	中小型缶	小計		51			108	159	114.7
合計			5,788	9,489	712	93	430	16,512	—
※前年同期比（%）			101.7	100.3	93.4	102.9	95.8	100.1	—
※構成比（%）			15.7	76.3	4.9	1.3	1.8	100.0	—

（注）※前年同期比ならびに※構成比は、トン数による。 *は単位未満。 総本数17,298,593本。 表上の数値は四捨五入による差異がある。

会員

《正会員》
- 斎藤ドラム罐工業（株）
- JFEコンテイナー（株）
- （株）ジャパンペール
- 新邦工業（株）
- ダイカン（株）
- （株）東京ドラム罐製作所
- 東邦シートフレーム（株）
- （株）長尾製缶所
- 日鉄住金ドラム（株）
- （株）前田製作所
- （株）山本工作所

《準会員》
- 森島金属工業（株）

《賛助会員》
- エノモト工業（株）
- （株）大和鐵工所
- 三喜プレス工業（株）
- （株）城内製作所
- 東邦工板（株）
- （株）水上工作所

ドラム缶工業会

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10
（鉄鋼会館6階）
TEL 03-3669-5141　FAX 03-3669-2969
e-mail：drum.pail@jsda.gr.jp

URL：http://www.jsda.gr.jp/

ひびきNo.65（平成25年1月25日発行）
発行人　ドラム缶工業会
専務理事　事務局長　米倉 隆行

本誌は環境に配慮した工程で印刷しています。